



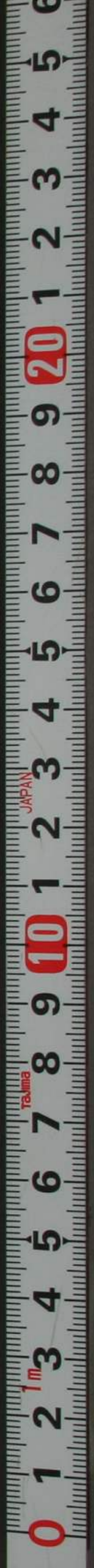
里見八犬傳

第二輯

卷一



709
6



曲亭馬琴著

明治二十六年十月九日購

第一輯

八犬傳

東京名山閣版

門 13
號 709
卷 6

名山閣

八犬士傳第二輯自序

〇〇〇

稗官新奇之談嘗含畜作者胃臆初
攷索種々因果無一獲焉則茫乎不
知心之所適譬如泛扁舟以濟中蒼海
既而得意則栩栩然獨自樂視人之
所未見識人之所未知而治亂得失
莫不敢載焉世態情致莫不敢寫焉

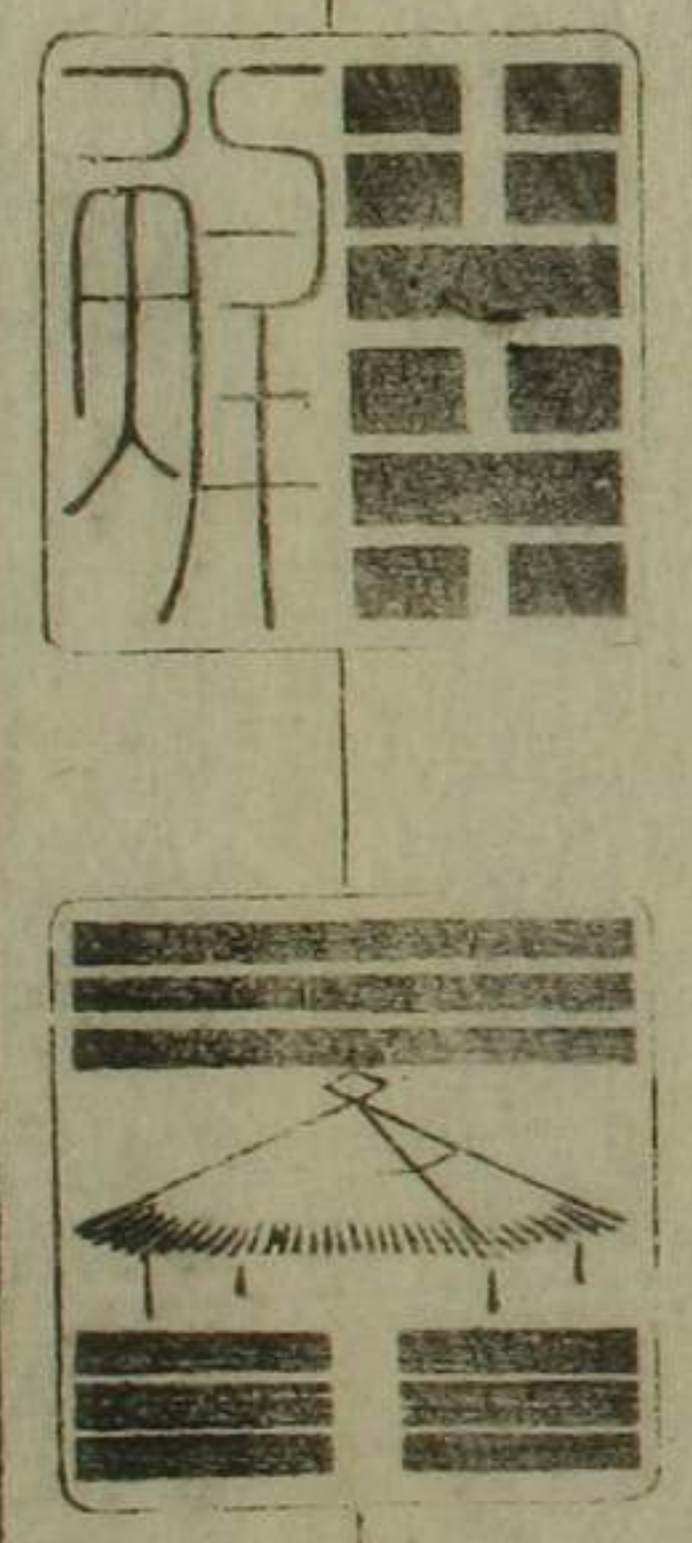
排纂稍久。卒成冊。猶彼船人。漂泊數千里。至一海嶋。邂逅不死之人。學仙得貨。歸來告之于人間也。然如乘槎桃源故事。衆人不信之。當時以為浪說。唯好事者喜之。不敢問其虛實。傳迨數百年。則文人詩客風詠之。後人亦復吟哦而不疑。嗚乎。書也者。寔不可信。而信與不信。有之自國史絕筆。小說野乘出焉。不啻五車而已。屋下加屋。當今最為盛。而其言詼諧甘如飴蜜。是以讀者終日而不足。秉燭猶無飽焉。然益於其好者。幾稀矣。又與夫煙草能醉人。竟無充飲食藥餌者。無以異也。嗚乎。書也者。寔不可信。而

信與不信有之。信言不美，可以警後。
學美言不信，可以娛婦幼。儻由正史，
以評稗史，乃圓器方底而已。雖俗子，
固知其難合。苟不與史合者，誰能信
之。既已不信，猶且讀之。雖好，亦何咎
焉。予每歲所著小說，皆以此意。頃八
犬士傳嗣次，及刻成書，賈復乞序辭。

於其編因述此事以塞責云

文化十三年丙子仲秋閏月望抽毫
於著作堂南牕木樺花蔭

簞笠陳人解識



南總里見八犬傳第二輯摺目錄

卷之壹 第十一回

仙翁夢葉富山 負行暗獻靈書

同卷 第十二回

富山洞畜生發菩提心 汧流水神童說未來果

卷之貳 第十三回

遺尺素因果自訟 拂雲霧妖孽肇休

同卷 第十四回

飛轎使妾涉溪澗 鳴錫大索記總

卷之參 第十五回

金蓮寺番作擊雙言 拈華庵手束留客

同卷 第十六回

白刃下戀鳥鳳結良緣 天女廟夫妻祈子

卷之肆 第十七回

逞妬忌墓六求螟蛉 固孝心信乃襖曝布

同卷 第十八回

簸川原紀二郎隕命 莊官舍與四郎被疵

卷之伍 第十九回

龜篠姦計賺糠助 番作遠謀托孤兒

同卷 第二十回

一雙玉兒結義 三尺童子述志

統計二十四回其第一回迄第十回既録于肇輯第一卷



犬塚番作

心裏

春風の
 花の
 散る
 姿
 ちよ
 らむ



亀條

平本五倍二

酔ぬどよめをぬ妻の花さるに
 さくらも肩ふかりてそゆく





土田土太郎

關原左文三郎

卷舒在手雖無定
用舍由人却有功

三保春の
亭松の
似る破傘
風ふると
まじり
門迄



突野加太郎

板野井太郎

濱路

六の編第一の卷に至る。伏姫の事盡せり。かゝる筆輯第十回なる題目ハ
禁を犯し孝徳一婦人をいぢり。第十三回と云えども、その前小出せし
腹列表て伏姫八犬子をまをす。第十四回と云えども、その前小出せし
後端のいぶき盡さざりしを、中刊行せしゆ急ふその大なるをあらせんとす
物語ハ心と後多しその補像。之前小出。ゆゑそと七卷十四回を前帳とせし不
かきし書肆の好む已とせぬ。かゝる毎編五巻を年々嗣出せしむなり
右の筒端より出像中より第三輯の巻とて、あましく脱出せしものあり。その軍本
五倍二細乾左文二郎。土田土太郎。交野加太郎。板野井太郎。則これ豫てハ
後端のいふくハ士のうへに定うるぬ。書肆が責を塞んと稿本ハハの
其如へ至るも、まむすの考起さる。をいふとよづ画をあらは後
その画又あり。地はほころともあり。緯大々ふくは、そのほころ予が
正と違ふ。にまむすの例のまむすの首官察し入る。馬琴再識

南總里見八犬傳第二輯卷之一

東都 曲亭主人編次

仙翁 夢小田山 又 葉ま
真行 暗又 靈書を執筆

第十一回

里見治部少輔義實朝臣ハ山下麻呂安西ホの大敵を滅し、麻のどく
素多る。安房の四郡をうち治め、威風上總の盡れ、小麻呂武士を
あつちし、鎌倉の兩管領山内頭定扇谷定正也。
悔より、つとむる人、再々京師へ執奏して、義實の官職をよめ、治部大輔に
あつてけり。あつちしめ、つとむるのを、歳よりうち続けしむ。義實ハいぬ
年。安西景連又攻撃せしむ。籠城困窮難儀の折、士卒の飢渴を救ふとして
あつちしめ、一言の失より、最愛する。おん息女伏姫を八房の犬又侍せ。

渠も富山へ入りよると終るその安否を尋ねて世のゆゑ人の残る隙も
 あれまうとふいと物々も思召を然とてさうも出さるるに彼溪洞は路絶く
 つか方なるのめあはさる親も一切あつせざとて其樵夫獵人ふんづら
 正のあつてもせが親胞兄中又遭入りよりハハ不し悔く恥したるるえしと
 びひるふの暴ふに國中小詢をくくく良賤士庶をいらむ山掙まらぬあり
 とも伴のふふ登る上坂折さしをどりとの昔小背くぬのハ必首を刎んとて
 掙させぬふも亦生憎ぬあさなるぬるみとろはあつりぬのハ金碗大捕孝徳
 るの渠へ安西景連は兵糧を借んとく苟ふ出くわたりあり今小あな
 ちと謀て擣とるるるが果敢るる命死にけりささる陣没する
 うるべ功ありるが賞状辞し腹切とてさしける親孝吉を材ぬぬあへ
 末期は誓ひいとあまふのうでその子と一城の主もせん女塔ぬをせしむ

ちひくゆふ化ありたまるせぬぬのハ人の入盈まが虧る月をうても去歳は
 今年もつなげだつたり果し渠ホのそいつふらると人とをりふ人は回さ
 るるるる子と迷ふ親の常闇ハとてとて照てとてよのめるくむらむらむら
 多現百万騎の敵とてとても屑とせざりける智仁勇の三徳を兼ぬゆへ
 大将とて又今ささる小術ありくくつくまであひ屈ぬるハ況義実の夫人五十
 子ハその月その日伏姫と別とてとての面靨のそ目小をひて泣くく泣く
 明くあひつ渠恙るるあせぬる人ぬり来る日小あせぬると神は佛小く編
 うち合さる骨をも指も細りく朝夕の箸とるるも懶け小御膳ゆとませ
 るるのハ臂ちつ小使と専女房ぬ共とち人理とやうさとのそそ感慰ん
 ちのもるるあのか心成鬼みく富山の奥小こけ登るる姫入のおん所在を
 遂はささるるるるるらと志のびくは相譚ひつ行者の石窟へ代とふとひ

ありとて彼山に赴きて。おぼつちかむ伏姫を索す。わらざるをばくまり。こぼ
 中ふ志あり。山道の凄く。ふゆを登りて。かの麓より還る。あつて手
 末衣。給事。心ざり。雄々たる。のへ郷導者。先んず。て。亭
 こけ。おぼつちかむ。十郎輝武。が。推流。さ。り。と。いふ。山川。の。あ。り。こ。へ。郷
 導者。も。か。と。と。て。流。さ。り。固。より。川。の。向。ひ。の。狭。霧。時。も。立。た。ぬ。水
 音。お。と。り。し。其。知。も。い。え。ま。あ。り。こ。る。岸。の。茨。は。花。八。開。と。針。乃
 席。に。坐。り。あ。ら。ま。く。毛。骨。い。よ。の。も。た。ぬ。不。駄。く。是。首。より。引。入。り。く。
 こ。も。も。本。意。を。遂。る。う。り。只。如。此。と。告。り。せ。五。十。子。ハ。又。さ。う。い。は。ゆ。
 け。は。さ。く。と。て。う。り。た。姫。の。患。苦。は。と。あ。ら。ん。わ。や。あ。ら。ん。と。村。肝。の。さ。め。
 却。つ。ふ。ち。量。る。歎。きの。霧。の。難。い。お。お。ぬ。月。を。形。る。ま。この。世。も。あ。ら。ん。
 畜。の。生。を。隔。く。い。ち。ち。も。あ。ら。ぬ。せ。あ。ら。ぬ。誰。を。の。も。の。火。よ。い。も。夏。虫。の。

焦。ま。く。物。を。穿。つ。ん。り。こ。も。と。や。死。ん。と。口。境。あ。ら。び。吐。き。ま。け。ま。り。あ。ら。ん。
 故。を。強。竟。よ。る。病。著。り。病。著。り。醫。官。ハ。解。火。壺。氷。の。術。死。を。入。ま。く。と
 欲。ま。い。その。功。杏。林。に。満。る。ふ。う。り。く。驗。者。ハ。兩。部。習。合。の。符。に。邪。と。禳。と
 欲。れ。と。その。法。枯。木。小。花。さ。の。妙。う。月。小。ま。一。日。ふ。そ。ひ。く。つ。も。危。く
 ん。え。と。せ。ま。ん。が。義。実。ハ。その。疾。さ。り。枕。上。に。立。より。く。み。ぐ。う。病。苦。瓜。瓠。ふ。
 傳。兒。の。老。女。ホ。が。殿。の。こ。ろ。と。せ。ま。ひ。た。と。あ。ら。ぬ。と。い。ふ。と。て。五。十。子。ハ。女。の。童
 ホ。に。扶。ら。し。ま。く。や。う。や。く。は。牙。を。起。し。ま。あ。ら。ぬ。て。義。実。の。お。ん。頼。つ。く。と
 向。上。の。臉。お。ち。り。と。頰。骨。の。さ。き。あ。ら。ぬ。と。あ。ら。ぬ。涙。の。露。の。玉。の。緒。を。頼
 ま。く。る。形。容。小。義。実。も。つ。く。と。ん。つ。頻。ふ。嘆。息。け。ん。心。地。の。い。つ。あ。ら。ぬ。今
 五。日。強。く。あ。ら。ぬ。や。う。や。く。お。ち。り。あ。ら。ぬ。と。医。官。ホ。ハ。ま。う。い。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。
 つ。く。乳。長。く。保。養。さ。る。と。慰。め。ら。ぬ。瓜。膝。に。措。く。え。く。頭。を。掉。医。官。を

何と申す所とも。いふまで不瘦脆ひく。返すぬ旅は逝水のうらふべくハたぐぬ
 う。病ごらふハ維ゆ急る人。そふまうさ心も精くあらぬ。うや蓬菜不死
 の樹不^{あやむら}の葉も何^{あやむら}せん。とてものつて現身の生のうらなるひであふ。あふと
 くと伏姫^{あやむら}は今下^{あやむら}びのあふうあふ。うらなぐための仙丹^{あやむら}方^{あやむら}とまう
 たる葉もたぐむ。此^{あやむら}よりさふ法^{あやむら}をたぐる。婦女の愚癡^{あやむら}を僻^{あやむら}むと論
 くもの人^{あやむら}をふあはと。國のの親のとも。月を費^{あやむら}ふく家犬^{あやむら}は待^{あやむら}まつ足
 曳^{あやむら}の山路^{あやむら}を指^{あやむら}入^{あやむら}り。姫^{あやむら}ハ傳^{あやむら}稀^{あやむら}なる心^{あやむら}操^{あやむら}を類^{あやむら}乎^{あやむら}る。因果^{あやむら}をとおらひ捐
 させのひろく。民^{あやむら}よ仁^{あやむら}義^{あやむら}の君^{あやむら}なりとも。子^{あやむら}ゆを不^{あやむら}慈^{あやむら}たう親^{あやむら}とまう。こん
 いと憚^{あやむら}めこころの綱^{あやむら}信^{あやむら}を喪^{あやむら}つとて。その子^{あやむら}を棄^{あやむら}させよふとの富山^{あやむら}の君^{あやむら}
 知^{あやむら}れぬ。四^{あやむら}の郡^{あやむら}の内^{あやむら}をさや。さふ羊^{あやむら}は月^{あやむら}毎^{あやむら}は安^{あやむら}否^{あやむら}と問^{あやむら}せ。みづもいひあて
 入り。入^{あやむら}るもせむ。返^{あやむら}すは憂^{あやむら}苦^{あやむら}を憂^{あやむら}ふ。うらなぐともうらとゆら。人^{あやむら}は推^{あやむら}夫^{あやむら}成^{あやむら}

燒^{あやむら}牧童^{あやむら}ホまが。件^{あやむら}の山^{あやむら}へ入^{あやむら}る。火^{あやむら}禁^{あやむら}めさうらふぞや。うや齋^{あやむら}忌^{あやむら}き魔
 所^{あやむら}うとも。誠^{あやむら}を推^{あやむら}せ。親^{あやむら}らう子^{あやむら}なり。國^{あやむら}の守^{あやむら}る威^{あやむら}徳^{あやむら}りく。今^{あやむら}るは姫^{あやむら}
 恙^{あやむら}なく。彼^{あやむら}山^{あやむら}くはあふやうや。あふやう思^{あやむら}召^{あやむら}る。難^{あやむら}くともあふぬ。呀^{あやむら}乃^{あやむら}
 うるべ。さひたせめらむ。是^{あやむら}の今^{あやむら}般^{あやむら}の形^{あやむら}ひはゆる。こつう。と恨^{あやむら}らう。
 勸^{あやむら}解^{あやむら}つ。せら。死^{あやむら}息^{あやむら}ハ吻^{あやむら}む。あは口^{あやむら}鏡^{あやむら}とて。茶^{あやむら}実^{あやむら}ハ默^{あやむら}然^{あやむら}たる頭^{あやむら}を擡^{あやむら}ひ
 う。呀^{あやむら}道理^{あやむら}らう。縁^{あやむら}故^{あやむら}を推^{あやむら}とら。こが一言^{あやむら}の失^{あやむら}り。子^{あやむら}を棄^{あやむら}恥^{あやむら}を送^{あやむら}らう。
 あんやみまの。さうらう。朽^{あやむら}をく。あふらう。人^{あやむら}木^{あやむら}石^{あやむら}はあふらう。さうらう。恩^{あやむら}愛^{あやむら}の
 絆^{あやむら}おとく。執^{あやむら}着^{あやむら}の羈^{あやむら}釋^{あやむら}易^{あやむら}なる。意^{あやむら}の駒^{あやむら}のねらふ。あふ。煩^{あやむら}惱^{あやむら}乃^{あやむら}
 犬^{あやむら}を逐^{あやむら}つ。公^{あやむら}道^{あやむら}を果^{あやむら}く。侮^{あやむら}と侵^{あやむら}たるのあふ。本^{あやむら}列^{あやむら}再^{あやむら}び。乱^{あやむら}はと。懼^{あやむら}ひて
 情^{あやむら}と剖^{あやむら}欲^{あやむら}を禁^{あやむら}めて。えらう。山^{あやむら}見^{あやむら}ホまが。彼^{あやむら}山^{あやむら}は登^{あやむら}る。火^{あやむら}聴^{あやむら}らう。姫^{あやむら}が
 ぬ。恥^{あやむら}を掩^{あやむら}ひ。愛^{あやむら}は溺^{あやむら}と。法^{あやむら}を枉^{あやむら}則^{あやむら}を踰^{あやむら}る。こが。あふ。を民^{あやむら}よ。さうらう。せん



駁をと飛と
 考まく負ます
 仍ゆ龍り田の
 小こ赴ぞく

堀ほりのの負おしのの死し

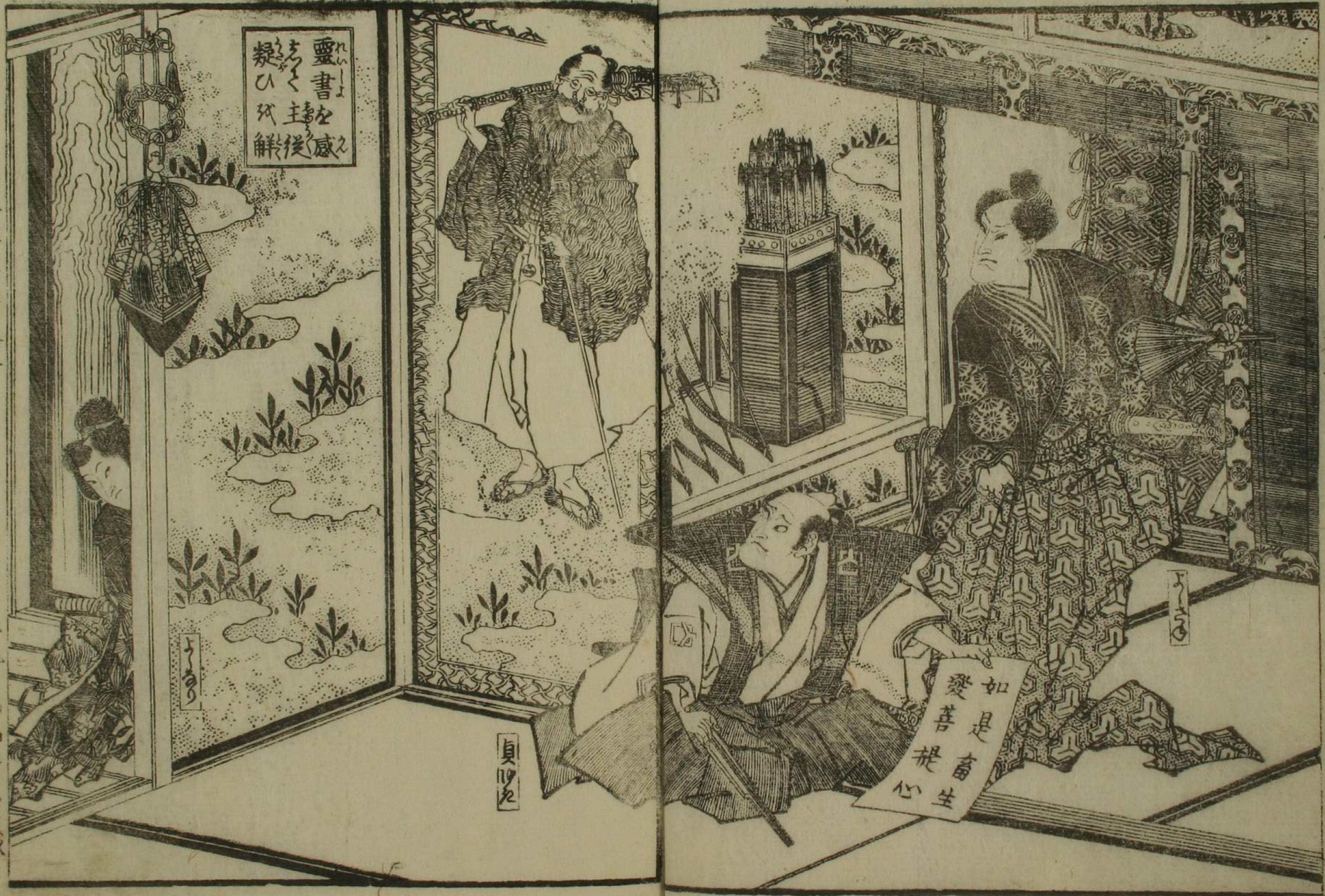
この画ゑのの解げ
 第だい十六張じゅうろくしやうの
 背せのの全ぜん

本つ則殿の侍教書とく襟小掛さる狐蓋しく解かろく癒ふせり久某拜
 見仕るふ翁が口状も符合さるる且ぶ家なるも疑ふとく件の公羽を久某と
 みて馬は鞍あはるち乗く。後者のつく狐俣を夜を先途をいそぐく。
 神館よまらまてうけらるる且び縛みる案に相違せり。原来彼翁を癖者小
 極とる。とどくともやどくをる侍教書へふふあやと。と色商せと懐中より。
 どう出く返くなく。義実さやくとうち抜きこむふと貞妙が方ふ引
 向くつせり。貞妙再びうち驚き。現某がそのふん。丈夫ふふふむとわ
 る。如是畜生獲甚菩提心と二行八字と変ぜり奇なり。とたふふふ呆
 ると半响あより又いふよりゆあるけり。義実への一句は忽地暗りて巻かこえ
 飛人汝がやうまを所偽るふ不思議のふ抑さの使者と称してこの書と通
 ませり翁が年齢その面影はいつまに輝は告下と室へ貞妙羞る気色よとく。

件のお相八十あまり。百とせりゆめ及べり眉は長うして綿花を重なるて歯を皓して
 銀杖を連たるふ異なる。髪弱は瘦くとも健え老るとつんばいと弱く眼光
 人を射て威あはれとも猛うとどよふり道顔仙骨と云果るべし。とちうとめぞ
 義実ハ思ふも。常狐丁と拍。たつとも似る奇終あり。その疑ふべしゆあむむ。
 洲崎の崖小迹垂るふ役行者の示現。且とめより告んとて夫人は諾ひる。し
 伏姫の安否を訊ふべらる。又義成の孝心勇氣もひつとてく。人へ及ふ富山の
 奥のあふさる。岸は遊びく。さるる翁は遭一縛の越首尾を脱る。はるは
 五臓の疲勞も成る頼む不足下とどひが。口今汝がやうくつ。公羽の面影つが
 義実。ええつらめのと紡辨。加誨如是畜生云云の八字とく。過去未来を
 示せり伏姫釋る。ととと病もく。嗚音く。えん。あう。ふ洲崎の崖さる。役
 行者の利益よよりて後健も生。月あ。え。この折は感得せり。水晶の念珠も仁

義礼智忠信孝悌この八乃文字あり。この後菴城難儀の折。一言乃失
 めく。姫を八房に許せし日。件の八字ハ消滅く。しつめ後ふ。如是畜生獲喜搜
 心と続き。因る。多う。つが女ハ嘉吉二年夏の季。伏日の比生さ。ふ名を伏
 姫と喚做せし。後竟ふ人。く。犬。後ハ名詮自性。そ。將脱。な。因果。人。
 渠。を。乗。る。縁。故。ハ。親。の。為。國。の。為。仁。義。八。行。を。世。の。人。と。喪。せ。ば。あ。る。は。
 どの。苦。節。義。信。の。善。果。よ。り。く。如。是。畜。生。小。法。引。き。遂。成。等。正。覺。ふ。入。る。
 の。み。ぞ。あ。ら。ん。む。ん。と。く。も。も。め。て。曉。す。け。ん。不。敢。復。姫。を。禁。せ。ん。は。
 渠。が。望。小。任。せし。より。と。く。二。年。よ。り。と。始。ま。し。も。安。否。を。務。む。所。せ。ば。推。夫
 携。入。ホ。ま。く。彼。山。入。る。工。を。禁。め。今。五。十。子。が。疾。病。危。く。そ。が。情。願。乃。默。止
 かく。ふ。姫。の。安。否。を。も。ろ。う。と。む。む。と。多。も。も。ろ。ほ。む。難。つ。予。が。夢。よ。こ。へ。い
 翁。の。面。影。こ。の。書。と。汝。み。ど。り。せ。し。と。い。ふ。そ。の。力。の。と。一。点。よ。こ。へ。と。は。給。い。し。恰。と。い。ひ。

神変不測の應驗。う。く。義。実。が。疑。惑。狐。解。く。富。山。の。奥。導。き。行。者。の。示。現
 疑。ふ。う。ぶ。か。ど。は。是。法。度。を。覆。我。意。を。枉。て。伏。姫。又。再。會。の。時。到。り。則。權
 者。の。示。現。又。任。く。汝。を。お。く。こ。こ。に。入。ん。こ。の。み。沙。汰。ま。ぐ。も。ど。人。ハ。唯。奇。を。好。む
 の。え。示。現。靈。應。愍。と。て。こ。こ。の。姫。と。あ。ふ。と。あ。ふ。民。喋。と。奇。を。談。ぶ。こ。こ
 ころ。と。鬼。神。の。徳。成。淫。さ。ん。又。彼。山。は。於。つ。と。い。ふ。と。終。に。伏。姫。と。あ。ふ。と。く。夢。を
 信。じ。く。影。を。逐。ひ。假。を。認。く。風。を。捕。る。義。実。が。愚。を。民。不。知。く。と。世。の。胡。慮。は
 する。と。ぬ。べ。く。大。約。此。度。の。後。者。ハ。汝。が。外。ハ。列。率。十。四。五。人。と。え。れ。汝。と。し。て。も。言。ふ
 寡。さ。の。の。と。ろ。ろ。が。老。實。う。ろ。狐。擇。べ。く。翌。つ。と。め。く。と。出。る。人。准。備。を。せ。し。し
 と。且。示。し。且。命。し。る。自。身。が。く。威。佩。も。く。敢。復。一。後。及。ぶ。既。ろ。く。直。示。や。う。
 姫。ハ。幼。穉。と。り。ま。世。時。役。行。者。の。靈。驗。利。益。彼。水。晶。の。珠。數。の。り。も。其。由。粗
 ま。且。孤。老。れ。此。度。の。奇。特。は。符。合。ま。と。思。召。合。さ。と。亦。但。君。が。層。智。乃



靈書を感
疑ひ主を
解後

如是
變喜
提心

貞心

徳併姫人の至善節義不あらずせむ奇特なりや今打鐘を外ら
 との御判新ハ錯へうまむ遊山のるまうびいそがせるととまうじく
 侍不退出り。義実の意は秘しく件の緯の趣を夫人も告めりむ
 義成は如此と密語めむ義成も亦感嘆しく己のむむ父は代まで
 赴むやと思召ども。権者の導たふりぬ。このころうづるふまふ
 日ハち母五十子。いづれ病つとく。いと危く見えむ。及む
 苗子のみ義実ハ五十子が生前ふと公いそしく。その夜の時
 長狭富山の麓なる大山寺へ詣りて。未明も出ぬ。微行の
 うまむ供ハ堀内人貞好以下十人。過さる。この程ふ義実ハ貞
 行と二騎馬を並み。只管は鞭を揚。足掻を早め。ひく。その日
 乗者も。や富山へ登り。山川の岸と。木々の。巖石

の形状樹木の光景。まじく。夜の夢。ふ。荆棘を。途を
 索く。一町あま。右の。果。枝と曲草を。徒。小菓あり
 けり。主後。この菓を。目と目を注。小信と増。男
 廻。後方を。負行。外。歩。後者。遠離。流。の
 且。馬奴。只。登。ま。ふ。れ。義実。孤。所。既。この
 あり。他人。後。要。彼の。馬を。牽。て。供。よ
 とく。と。負行。果。の。男。を。山。下。繁。馬
 指。如此。仰。麓。へ。主。後。亦。二。人。途。と。免。山
 蛭。立。を。傾。葛。藤。足。を。取。と。送。高。く。声。を。う。け。羊。腸。た。る
 山。と。其。首。と。も。踏。了。踏。辛。て。進。む。後。小。彼。川。上。と。巡。り。末。は。け。ん
 樹。の下。周。を。ゆ。れ。脱。る。川。の。あ。ま。く。出。け。り。

第十二回

富山の洞は畜生菩提心を獲き
流水は流る神童未果と説く

端世煩悩色欲界。雅五塵の火宅を脱。入祇園精舎の鐘の声。入緒行
元常の響。あはれもの飽き。をてを。好む。の。後朝の別。と。瓜惜。む。故。は。只
と。心。も。雙。言。と。憎。し。沙羅。雙。樹。の。花。の。色。入。盛。者。必。衰。の。理。入。頭。せ。は。も。
徒。小。香。を。愛。る。の。入。風。雨。の。過。る。え。と。を。妬。む。が。故。は。偏。は。近。年。の。春。を。契。ま。り。
觀。む。と。入。夢。の。世。規。む。ご。る。も。亦。是。の。世。は。孰。く。幻。る。ご。り。ける。思。ひ。内。ふ。あ。る
の。入。龍。華。の。三。會。は。値。べ。と。い。ふ。も。凡。夫。出。離。の。直。路。を。ま。る。と。覺。て。復
悟。る。の。入。虎。穴。龍。潭。ふ。在。り。と。い。ふ。も。瑜。伽。成。就。の。快。樂。ヨ。ヌ。ク。執。を。ふ
世。を。必。し。捨。く。富。山。の。奥。は。二。と。廿。の。春。と。秋。と。送。る。る。杖。も。里。見。治。部
大。神。義。實。の。入。息。を。伏。娘。ハ。親。の。為。又。國。の。為。又。言。の。信。を。黎。民。は。失。り。せ。し。と

身を捨く。八房の犬は伴と山道を指く。入日成隱世。後ハ人訪む。岸の植生と
山川の狭山の洞。真菅敷臥房。定めり。冬籠り。春去来。入朝鳥の友。水鴨
頃ハ八重霞。高峯の花。と。い。ふ。も。弥。生。ハ。里。の。雛。遊。び。垂。髪。少。女。ハ。水。鴨
成。二。人。双。居。今。朝。を。摘。む。名。も。ろ。う。き。母。子。草。維。拵。そ。あ。り。二。つ。の。口。の。餅。は
あ。ら。ね。菱。吹。の。尻。拭。石。も。雷。ふ。ま。り。稍。暖。死。苔。衣。脱。う。え。袂。ど。も。夏。乃。衣。の。
秋。涼。ハ。死。松。風。は。揺。ら。り。と。夕。立。の。雨。小。洗。入。り。乾。を。髪。の。蓬。が。下。小。鳴。虫。乃。
秋。と。る。の。入。谷。の。の。も。ち。葉。織。映。し。錦。の。床。も。假。寐。の。宿。と。ま。り。て。や
鹿。ぞ。鳴。く。水。澤。の。時。雨。宵。回。る。香。果。ハ。其。知。と。も。ま。る。雪。小。岩。が。枕。角。と。れ。て。
真。木。も。正。木。も。花。ぞ。こ。こ。四。時。の。眺。望。ハ。あ。り。ろ。う。ご。と。び。く。も。處。は。自。物。
藤。折。布。と。外。は。立。む。後。の。世。の。為。と。ま。る。つ。ふ。経。文。統。編。書。写。の。功。日。数。積
且。く。入。る。由。憂。ハ。馴。つ。憂。ハ。と。せ。ど。浮。世。の。入。世。を。く。ぬ。る。乃。音。賦。の

慈悲の穢土穢物を掃ひのりて。天をばる。地をばる。草葉も堅く
 魚江河の鱗ぬやうく。悉皆成佛せざるころ。今この犬が欲と忘れて流
 経の声を聴く。如く入帰の友とるころ。皆おん経の威力よき。併
 釋尼時は吾侪のときせを示させぬ。役行者の冥助よそと最末く
 るひとて。いよく流経を怠るころ。早あめ珠数をあし採く。遙々
 洲崎の方よ祈念。又あるとれハ父母のおん經の偈文を騰々し。く
 前なる山川も流し。春の花を折る。佛も向なり。秋入る月も嘯て坐ふ
 西天を遠めり。さよふ山果懸く。朝三の食。秋風も飽き。柴火爐も宿りて
 夜薄の衣寒気。防ぐ。八歩山嶮け。とも。藪を首陽も折る。怨たう。
 岩窓も梅逢け。とも。嫁く。胡語を屋ぶの悲とる。姫ハおん年二十も満む。
 容顏固より玉を欺く。巫山の神女が雲とるころ。夢の面影を笛先小野

小町が花は凡の歌の風情を残せり。金屋の内。雞障の下。小養とる。日ハ更ぬも
 いらど。今山居久し。衣裳ハ垢つた。破とれども。肌膚も残雪より
 暗く。雲鬢梳ゆ。由る。とも。緑鬢。春花より芳。細腰。いよく。瘦て。風よ
 堪る。柳の。玉指。細り。色。惱る。筆。似。その。素性。を。以。ふ
 と。安房の。園主。里見。氏の。嫡女。と。心。操。と。論。横。佩。おん。息女。中。將。姫
 ぬ。愧。と。草。書。又。續。書。と。父。の。才。を。稟。て。おん。理。義。も。怜。惻。刺。縫。又
 管。絃。ハ。母。君。の。小。習。せ。その。調。と。妙。い。く。まで。愛。た。れ。未。通。女。ま。て。ま。う
 ち。と。ふ。つ。ま。月。下。翁。と。妬。と。て。非。類。の。八。房。小。伴。と。小。流。ま。り。く。た。る。と。おん
 る。る。精。細。と。字。と。出。え。と。筆。法。り。心。痛。了。當。時。の。光。景。想。像。は。
 一。は。程。ぬ。年。ハ。暮。る。岸。の。小。草。漸。萌。出。谷。の。樹。芽。も。翠。を。ち。比。一。日。伏
 姫。ハ。硯。と。水。を。滴。入。と。出。て。石。瀆。を。掬。多。く。横。交。せ。止。水。と。る。影。ハ。こ

多々。その體へ入ふ。頭へ正をく。犬有りける。名ひくけ。後々ぬむり。小吐嗟と叫
 ひく。ろ。退を。又立。よりて。足。多。その影。不。異。さ。る。と。は。こ。ろ。が。心。の
 惑ひ。あり。けん。可。惜。膽。つ。ぶ。ふ。け。り。と。ど。ひ。久。く。仏。の。名。号。を。唱。つ。この。日。に。鐘。文。と
 書。字。一。あ。ふ。胸。購。る。な。り。て。次。の。日。も。心。地。例。を。ま。ご。この。比。より。又。月。水。瓶
 結。て。る。と。は。月。日。中。や。累。る。ま。ふ。腹。張。く。堪。じ。ま。ち。脹。満。る。ど。り。め。の。あ。や
 あ。ん。と。く。死。ね。と。思。ひ。あ。ふ。よ。さ。も。う。て。春。暮。夏。過。り。いと。悲。し。秋。を。ぞ
 う。さ。ぬ。備。し。去。年。の。こ。の。月。鹿。田。の。館。を。生。り。た。才。の。病。著。し。思。ひ。う。ろ。ろ。く。只
 痛。し。た。母。う。へ。り。泣。つ。送。り。む。ら。さ。く。あ。ん。面。影。の。目。小。添。く。忘。ま。え。と。ま。は。よ
 忘。ま。え。と。母。も。如。此。ぞ。と。り。ま。ま。と。ん。ひ。く。ぬ。と。孤。え。も。も。多。ひ。つ。げ。思。ひ。細。り。て
 病。づ。て。ひ。の。り。ま。や。家。ま。の。君。家。芽。長。成。い。と。ま。う。く。名。の。ま。あ。は。國。も。う。り
 郡。小。在。る。さ。里。遠。離。る。山。鶴。の。雌。雄。も。あ。ぬ。親。同。胞。峯。上。隔。て。影。夜。ふ。

入。る。よ。う。も。う。た。哀。別。離。若。強。面。の。の。蜻。蛉。の。命。ま。と。と。思。ふ。の。白。月。小。あ。ま。さ。ん。の。
 百。竹。入。山。岩。小。額。成。り。音。當。く。一。声。と。と。澄。み。且。く。目。を。拭。ひ。噫。怒。て。る。思。患。癡
 ろ。ろ。と。た。兼。恩。入。無。為。報。恩。者。と。仏。へ。報。せ。ま。ら。る。恩。愛。別。離。の。あ。ら。ま。も。
 不。二。要。門。の。意。樂。は。捨。ん。や。あ。う。ろ。ろ。の。み。る。親。の。あ。ん。め。ち。る。み。ら。し。と。思。ひ
 ち。り。へ。罪。あ。つ。た。三。世。の。猪。佛。ゆ。り。せ。ま。八。房。へ。求。食。め。り。て。嚮。小。出。て。い。ま。が。あ
 ら。ど。渠。も。め。い。食。を。求。く。獲。ぶ。ろ。と。た。へ。り。ま。る。吾。侪。亦。佛。は。仕。侍。ま。ら。
 怠。ん。や。露。も。の。そ。ぼ。つ。比。る。が。ら。深。山。ハ。草。の。花。も。稀。り。素。く。多。向。む。と。ん。と。思。う
 ま。ち。つ。や。う。や。小。いと。重。女。た。の。牙。を。起。し。流。水。よ。そ。う。く。綜。麻。形。の。林。が。と。の
 菊。の。花。も。折。ん。と。と。も。二。三。町。裳。濡。し。く。進。む。の。浩。知。は。乾。る。重。山。の。根。方。よ
 當。り。く。笛。の。音。幽。く。た。え。け。り。伏。姬。耳。を。側。く。あ。や。や。この。山。ま。推。夫。も。入。ら。む。
 山。見。も。ほ。い。せ。ま。ご。た。の。処。ま。る。日。より。ま。の。ま。ま。で。も。け。か。と。も。人。よ。あ。ま。と。う。ほ。ふ。思。ひ

草花を
たねに
伏姫神
童みあ



天傳二冊巻一

廿六



伏姫

天傳二冊巻一

廿六

審めり。百事申らむとて、いふは、けり。是師の命、瓜、真と、瓜、採、人、為、小
まはり。寔は、この山、人の往還、禁、あるは、程、まう、び、舊、の、と、山、押、と、許
さ、心、べ、い、か、師、と、ま、を、さ、は、ひ、ゆ、ま、よ、ま、瓜、採、い、の、人、と、い、伏、姫、の、て、嘆、息、い、
ば、あ、ち、ち、現、二、親、の、あ、ん、慈、悲、な、り。月、日、と、共、小、照、さ、ぬ、隈、な、り。身、を、穢、さ、ま、い、ど、潔、く、
あ、て、ま、ら、と、も、知、召、後、が、如、此、針、の、せ、め、ひ、け、ん、さ、ま、ぶ、と、く、こ、が、才、と、の、故、を
り、て、登、崎、輝、武、は、溺、死、さ、せ、樵、夫、幸、雄、は、生、活、乃、便、著、を、喪、と、は、の、こ
あ、ま、と、落、ゆ、り、の、足、ま、は、駐、る、罪、あ、つ、ま、許、さ、せ、ま、人、と、い、ひ、け、て、や、ち
酸、鼻、あ、ひ、け、目、且、く、又、童、子、小、對、ひ、そ、ろ、ろ、名、聲、は、仕、る、と、い、ふ、人、の、疾、病、を
珍、る、と、も、さ、ぞ、お、と、ま、び、く、あ、ん、ま、い、ま、今、試、と、小、回、べ、る、あ、ま、吾、侪、と、
春、の、比、より、後、く、月、水、を、い、ま、胸、う、る、く、煩、く、月、を、小、月、の、あ、り、き、ぬ、こ、
河、と、い、病、症、あ、ん、と、回、せ、る、が、ち、微、笑、婦、人、經、行、困、塞、と、後、一、兩、月、悪

心、く、酸、死、の、瓜、好、む、俗、よ、こ、且、瓜、悪、阻、と、り、み、三、四、個、月、中、く、その、腹、既、小、大、ま、く、
五、個、月、中、く、その、子、稍、動、く、と、あり、婦、人、あ、り、と、瓜、を、ま、と、り、こ、と、ら、い、医、工、同、み
や、ま、も、あ、り、あ、ん、身、の、既、は、懐、妊、し、く、五、六、個、月、小、及、び、多、り、何、の、疑、ひ、あ、ら、な、い、と
い、瓜、伏、姫、の、あ、ん、瓜、を、せ、る、と、を、い、ふ、り、の、ま、吾、侪、は、良、人、へ、る、あ、れ、さ、う、去、
歳、の、こ、の、月、こ、の、山、よ、り、め、り、日、よ、り、ま、入、を、い、ま、一、念、符、名、流、経、の、外、も、地、の、
あ、れ、の、を、何、よ、り、て、有、身、は、ま、ま、あ、ま、嗚、呼、や、と、嗔、り、て、お、ら、ま、と、笑、ひ
あ、ん、が、童、子、は、う、ち、あ、ん、ま、冷、笑、ひ、ま、あ、ん、力、小、夫、た、ら、ん、既、は、親、より、許、され
る、八、房、に、は、何、れ、の、を、と、結、ぶ、姫、の、貌、を、改、め、そ、ろ、ろ、只、その、初、瓜、知、く、こ、の
後、の、り、あ、ら、ま、ら、よ、云、云、の、故、あり、く、二、親、由、り、禁、め、ら、れ、ど、小、浅、や、く、家、大、と、
共、小、深、山、小、月、日、を、送、ま、と、あ、ん、經、の、擁、護、よ、ら、る、と、幸、小、月、を、穢、され、を、渠、も、亦
あ、ん、經、を、聴、く、と、瓜、の、と、飲、べ、り、繼、澄、据、は、る、と、い、ふ、と、も、こ、が、才、の、清、く、潔、く、神、丁、を

若くせめり入ふるもや非類の八房ありや。才おのりたるはしる人ども、彼ゆゑに
けいり穢ハ。やあれ童小おのりけく悔ふと。腹立てるち涙ぐもふ入立皇子ハ
 ちかしくうち笑ひこもるよく珍るところあり。又精細さるるあり。あなを
 その一を知く。いまその二をさくさるるあり。さうば恵ひを釋すのうせ入夫物類相
えい感の玄妙さるる只凡智をりく測るべくも。譬ハ火とさるるのりの石と金とさるる
ひのみとも、檜杵のむらハ友木あひよの相倚るありて、亦その中より火を出せり。又妙の糞羊と
へつむ婦と積と夥るも火のえ生こす。是は理外の理あり。物ハ陰陽相感せ
ふらざる。終る子を生とほ。但草木ハ非情ふく。松竹ニ雌雄の名あり。さらそ
かみん交構るののよあり。さうば亦より子を結び。加以鵲ハ十歳はて尾らむ。
あひま相見くとく孕むとあり。あるある秋士ハ取あかむ。神遊ハ春女々嫁す。
 きて懷孕り。やまや唐山楚王の妃ハ常小鐵の柱に倚りて歎びて。遂に

くろり鉄丸を産るを于將莫邪。劔小偁と我邦近江なる賤婦ハ入小積取と
かき押しと歎ひて。竟に腕を産る。孕村の名を達せると。皆是物類相感
さまう致まどう。只目前の理とりて推へる。あなガ懐胎さるるもこの類
あひまるのりの何疑ひのたえ。あなガ真小犯さるるも。八房も亦今に欲る。
あひままるとも。あな既に渠は針しく。この山中に伴れ。渠も亦あなを獲て。さる小
かきあのが妻ともあり。渠ハあなを愛する。あなその淫を聴くと。歎びあなガ渠を
かき帰依する所。さる小をけく憐れ。あなこの情既に相感む。相倚りたるあり。し
あひまひとも。あな才おのりたるさるる。さうばさるる。相さるる。胎内たのびハ子
あひまるるん。さうばあはさるる感。さるる。虚と相偶て生由る。その子
あひま全く體他さる。あな飛ぶ。さうばさるる生れ。後又さるる。是宿因の致を
あひま所。善果の成る所。因とる何を。譬ハ八房が前身ハその性侍る婦人。渠ハ父

義實朝臣を怒るとある。然りて。究魂一隻又の犬とありて。おん乃親子と辱しむ。
 是則宿因ある。果と何ぞや。八房既におん力を獲て遂におん力を犯すとす。
 法華經疏の功德小の功。やうやふその風怒を散し。共は菩提心と獲まか
 り。今この八の子を送せり。八の則八房の八を象す。又法華經の卷の教す。や
 夫萬率いと。將一將ハ轉く得さし。後におん子あり。智
 勇小秀忠信節操里見を佐けて。威を八州に吐き。おん乃賜
 かの。維その母を拙しとせん。是則善果の抑禍福も。糾る纏の如し。何人
 今の禍を。後の福ひる。よふ公を。世の嘲呼の好憎より起す。物乃
 汚穢ハ潔白と成る。ちうと。排傍も厭ふ。足と。恥辱も。只く。思ふ。
 隠して。頭と。蟄と。ハの。亦自然の。犬ハ
 懐胎六十日ハ懐胎十月ハ畜その差ありと。合と。推と。

おん乃が懐胎六ヶ月との月。その子産す。その産。母。親と夫。おん乃。是より。己前ハ未未果。おん乃。小言を。天機を
 漏さ。あり。後。その子の。おん乃。是。師の。おん乃。牛の。山川へ。逐ひ。玉。影ハ。立籠ら。姓。おん乃。

里見八犬傳第二轉卷之一終

